

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100810		
法人名	特定医療法人 浩洋会		
事業所名	グループホーム ゆりかもめ	ユニット名	つばめユニット
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町東栄町4丁目5-14		
自己評価作成日	令和5年11月13日	評価結果市町村受理日	令和6年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和5年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の田中病院と連携しご利用者様の体調管理や、日々の生活上での心配事や訴えに対応し、快適に生活していただけるよう職員一同努力しています。コロナへの対応が変わりコロナ前の状況になってきた事で、運営推進会議や高校の実習生の受け入れも再開し地域の皆様と交流する機会も増えてきており、今後もその機会を大事にしながら地域密着型施設としての役割を果たしていきたいと考えています。その他、以前から食材の買い物は近くのスーパーを利用し、野菜類も地域のお店から配達してもらっています。ご利用者様の希望に沿った買い物支援や、ケアプランにも上がっている脚力低下防止の為に戸外散歩や運動等実施し、職員皆で今後も取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域のニーズに応え新たに1ユニット増設して、令和4年5月より3ユニットを運営している。法人の母体病院が隣接しており、医師と密な連携が図れることから、入居者や家族は安心して生活を送っている。また、同病院が災害時の避難場所になっていることは、情報の共有、避難時間の短縮、介助者の人数など大きなメリットとなっている。近隣スーパーの利用や町内高校の実習生を定期的に受け入れるなど地域社会とのつながりを大切に取り組んでいる。ホーム管理者等が学校に出向き福祉の仕事について出前講座を行うなど、ホームの理解を促進させる取り組みも行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で意見を出し合い皆で理念を決め、玄関各ユニットの分かりやすい場所に掲示し実践している。	職員が、理念を確認し易いように各所に掲示し、共有と意識付けを図っている。また、理念を元にし職員と共に毎年の目標を立て、より具体的なケアの取り組みに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為、現在も交流会は開催出来ないが、面会や外出は感染対策を行った上で許可が出ている。	散歩や買い物に出かけ、地域の人と挨拶を交わすなど触れ合う機会がある。また、定期的に町内高校の実習生を受け入れるなど、交流に積極的に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてゆりかもめの現状を報告し、認知症の方に対する介助の仕方や支援の方法を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナでできていなかったが、今年度より再開し貴重なご意見等いただきサービス向上に活かしている。	参加者から研修会の案内や町の取り組み情報などを得て、運営や日々のケアに生かしている。また、会議内容をまとめ参加者に届けることで、より連携が図れるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば常に連絡を取り相互的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	町担当者と協力関係ができていて、日常的にメールや電話、必要な時は訪問して相談し、助言を受けるなどしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に「身体拘束適正化委員会」を実施し現状を把握している。玄関の施錠は状況に応じて対応しているが、殆ど施錠はしないようにしている。	利用者の外出しそうな様子を察知したら、職員が同行するなど、安全に過ごせる配慮がなされている。また、利用者の行動を遮る言葉かけが無いよう、注意しながら支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で相互注意し、意識しながら防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用を希望されているご利用者様がられる為、関係者と話し合い支援し協力している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	複数回説明の機会を設け、その都度対応し理解・納得を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お電話や来所された際にご意見をお聞きした場合は、職員で共有し反映している。また担当者会議への出席も願っている。		毎月、ホーム便りを家族に送付し、利用者やホームの活動状況を知らせることで、意見や要望の引き出しに繋がるように工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを実施し、意見や提案を聞き話し合っている。		日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、意見を聞く機会を持っている。職員の意見から、ゴミ廃棄用にキャリアワゴンを購入し、業務の負担軽減に繋げた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体である病院に意見を伝えるが、大きな改善は見られない。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在あまり研修参加は出来ていないが、今後院内研修及び院外研修参加を積極的に進める。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナもだいぶ収束しているが、交流する機会はあまり無い為、職員同士の勉強会等でサービスの質の向上に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の要望や意見に耳を傾け、話しを聞き関係作りにも努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話しや要望などにも耳を傾け、関係作りにも努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様とご家族様が、必要としている支援を見極め対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の毎日の生活に沿ったサービスを提供し、共に何かを行う事でより良い関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りと一緒に近況報告をし、ご利用者様の状況に応じてご協力いただき、共にご利用者様を支える関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間制限はあるが、居室での面会が出来るようになっている為、ご家族様は勿論、お知り合いの方も居室で会話していただいている。		利用者の希望により、昔から通うスーパーや理美容所の利用を支援するなど、一人ひとりの生活習慣を大事にすることは、馴染みの関係継続の支援に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクレーション実施の際は声掛けを行い、ご利用者様が皆一緒に出来るように職員間で気を付けている。			

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様やご家族様からのご要望があれば、その都度対応し相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や担当者会議等で、ご本人様の希望をお聞きし対応しているが、困難な場合には話し合いを行っている。	日常生活の中で、一人ひとりの表情や言動から、思いが把握できるようゆっくり話を聞くなどしている。また、理念である「同じ目線」「同じ気持ちを忘れずに」をもとに、利用者の立場に立って検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の情報を職員間で共有し、サービスの向上につながるよう話し合いも行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の体調に合わせて対応し、現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様・ナース・ケアマネ・PT・管理者・担当職員で担当者会議を実施し話し合いを行い、現状に即したケアプランを作成している。	利用者本人や家族の意向、健康状態、医師からの意見、日々の記録等を総合しながら検討し、ケアプランに反映させている。また、検討後は全職員が把握できるよう周知している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子をケア記録で確認し、職員間で共有して意見を出し合いながら見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族様の状況の変化に応じて、その都度対応できるようにサービスの多機能化に取り組んでいる。			

宮崎県門川町 グループホーム「ゆりかもめ」(つばめ)

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用様が不安を抱かず、安心した生活が送れるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院の受診はナースが付き添い、他科受診には原則ご家族様に対応していたが、適切な医療が受けられるように支援している。		看護師が同行し、受診結果に関する情報は、共有できるように申し送りノートにて、全職員が確認するようにしている。他科受診は家族対応であるが、難しい場合は、ホームでも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用様の通常と違う変化や状態悪化等あれば、すぐに看護師に報告し対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の病院への入院の場合は、主治医や看護師と情報交換や相談に努め、関係作りを行っている。他病院への入院の場合も状況に応じて対応している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、ゆりかもめで出来る事を契約時に説明し納得していただき契約していただいている。途中変更があれば言うていただく事としている。		入居契約時に、重要事項説明書に明記した内容をもとに、看取りの方針を説明して、終末期生活支援に関する要望を確認している。また、その後の状況に応じて、家族、本人の意思確認を行い、方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院が母体となっている為、ご利用様の急変時は連絡し指示を受けるが、職員も初期対応の知識は備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難が必要となれば、母体の病院へ避難するようになっている。誘導に関しては、病院職員の協力体制が整っている。		年2回、夜勤者対応も含めた、避難訓練を行っている。近隣に法人が持つ職員宿舎があり、有事の時は協力を得る体制となっている。また、水、食料品などの備蓄の整備もある。	

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し、お一人お一人に合った言葉かけや、プライバシーを損ねない言葉かけを行っている。		常に全職員が「優しい声かけ」「穏やかな対応」ができるよう、研修会報告書等に赤字で分かり易く記載するなど工夫して周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に思いを聞いたり、希望があれば自己決定が出来るように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様より要望がある場合はその方に寄り添い傾聴し、体調面にも留意し対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診や外出される際は、ご利用者様やご家族様ご意向に沿うように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前にご利用者の好み等伺い、楽しい食事が出来るようにしている。準備や後片付けも声掛けし、手伝っていただいている。		調理、盛り付け、片付け等も利用者の状況に合わせ共に行い、食事への関心を引き起こす工夫をしている。事前に希望を聞き、誕生日には好物を準備するなど、食事を楽しむ配慮がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状態に応じた対応を心掛け、お一人お一人に気を配っている。水分摂取に関しても、声掛けし状況に応じて摂取していただいている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されているご利用者様にも必ず声掛けし要介護のご利用者様も声掛け見守り一部介助を行っている。			

宮崎県門川町 グループホーム「ゆりかもめ」(つばめ)

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、お一人お一人に声掛けを行っている。ご利用者様が出来る事は見守り支援している。		夜間におむつを使用する方が1名いる。昼間は紙パンツ使用者がほとんどであるが、排泄チェック表を活用し誘導することで、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で確認し、看護師と話し合いながら運動や食事内容に留意し、個々に応じた対応・支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事前にご利用者様の意向を伺い、状況に合わせた対応を行っている。		仲の良い利用者同士一緒の入浴希望や先に入りたいなど、できる限り希望に沿うような配慮がなされている。また、希望者は好みのシャンプーやボディーソープを使用しており、入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様お一人お一人にの状況・状態を考慮し対応。空調に関しても、個々に合った対応で快適に過ごしていただけるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理をし、変更等あれば職員に申し送り、服用時も声掛けし確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が出来る事やその方に合った事を実施している。毎月の行事やレクリエーションも楽しんでいただいている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様にもご協力いただき外出されたり、ゆりかもめにおいても散歩や外気浴を実施し、気分転換を図っている。		利用者が、スーパーでの買い物や近くの公園での散歩が楽しめるよう外出支援している。ホーム近くにある実家に行きたいとの希望に、車いすを利用して同行するなど、利用者の気持ちに沿った支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	つばめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、本人様ご家族様にも事前に説明し、基本ゆりかもめの金庫で保管している。ご本人様希望時や必要があればお渡ししている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持たれているご利用者様もおられる。電話や手紙の希望があればその都度対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り物を作成し、飾りつけを行っている。居心地の良い空間を作る為、テレビの音量やエアコンの温度等配慮している。	食堂を兼ねた居間は、室温を管理し自然光を取り入れ、居心地よく過ごせる工夫をしている。また、テーブルなどの家具は、利用者の移動の妨げにならぬように配置されている。玄関や廊下には利用者の貼り絵などの作品が飾られ、季節感と共に喜びにも繋がるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士が会話しやすいよう座席を配置し、他ユニットのご利用者様が来られても会話しやすいように工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要があれば居室にテレビを置かれたり、写真等飾り、本人様が心地よく過ごしていただけるように工夫している。	使い慣れた寝具や家具、テレビが持ち込まれ、利用者が心地よく過ごせるよう配慮がなされている。また、写真や思い出の品々の持ち込みは、利用者がその人らしく落ち着いて暮らせる部屋作りに繋がっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様に合った体操や運動を行い、自立した生活が出来るように支援している。			